

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

国際会議助成

2016年度研究成果報告書(A, B, C)

1. 会議概要

会議名	和文	「東アジアにおける連帯経済・社会的企業」国際会議			
	欧文	International Conference on Solidarity Economy and Social Enterprise in East Asia			
主催	コミュニティ福祉研究所				
共催	ソーシャル・エコノミー研究会				
後援	国際公共経済学会(CIRIEC Japan)				
開催責任者	所属	コミュニティ福祉学部			
	氏名	北島健一		印	
運営事務局	事務担当者	コミュニティ福祉学部			
	氏名	北島健一			
開催期間	2017年 2月 17日 から 2017年 2月 19日まで				
開催場所	立教大学池袋校舎				
参加者数 ※1	学内	6名			
	学外	国内から招聘	8名	海外から招聘 8名 4カ国	
	合計	22名 5カ国			
公開講演会等 参加者数※2	① 公開講演会	2017年 2月 17日	約40名	5カ国	
	② 特別セッション	2017年 2月 19日	9名	2カ国	
開催日程		午前	午後	夜	
	第1日 2/17	ワークショップ	ワークショップ(~2時) 公開講演会	懇親会	
	第2日 2/18	ワークショップ	ワークショップ		
	第3日 2/19	ワークショップ	特別セッション「社会的企業/地域活性化実践での研修を取り入れた国際交流型学生教育プログラム」の開発に関する会議		
※3	開催経費総額(C)	予算額	1,853千円	執行額	1,840千円
	助成申請外資金総額(B)	予算額	260千円	執行額	173千円
	立教SFR助成額(A)	予算額	2,113千円	執行額	1,667千円

※1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※2 一般公開された講演会等に聴講の為に参加した者。講演者、パネラー等は除く。参加者名簿を添付すること。

※3 (A)(B)(C)の金額は、様式5の金額と合わせる。

2. 会議開催趣旨概要

近年の経済のグローバル化などがもたらした格差や雇用の問題などを背景に東アジア各国でも社会的企業や連帯経済の台頭が著しい。本国際会議は、サードセクター内のこの新しい動向を対象にここ2年ほどすすめてきた、東アジア四地域の研究者（日本・韓国・台湾・香港）による共同研究のワークショップとして開催した。東アジアに共通してみられる特徴および各地域の相違点を明らかにし、世界的に進行中のこの分野の研究に貢献することがこの共同研究の最終目的である。あわせて共同研究の成果の一端を紹介する公開講演会および共同研究を教育につなげていくためのプログラム開発に関する会議も開催した。

3. 会議の成果概要・今後の展望等

東アジア四地域の共同研究は出版プロジェクトとして立ち上げられたものであり、ワークショップは、事前に提出された各自の執筆分担箇所を順次検討していくという形を取った。多くのメンバーが7割程度の出来具合のペーパーを提出していたこともあり、体裁の統一や論点の確認、執筆者間での打ち合わせなど、細かく調整することができた。今後は、今回の検討を踏まえて各自の分担箇所を仕上げ、本年7月にベルギーで開かれる国際研究会議におけるセッションで発表の予定である。その場が最終の調整の機会となるだろう。

公開講演会は本共同研究のリーダーである Chung 氏（ヨンセイ大学）と国連社会開発研究所の Van Griethuysen 氏を講師として開催された。Griethuysen 氏には世界における社会的・連帯経済の台頭の様子と国連の取り組みについて話してもらった。かなり専門的な内容であったにもかかわらず活発な質疑応答がなされ、また講演会後の懇親会への参加者も多く、このテーマへの関心の高さをうかがわせた。

国際交流型教育プログラムに関する会議は、Park 氏（ハルリム大学）の提起に応じて企画したものである。研修受け入れ候補先の実践事例などの報告も交えながら、日韓学生交流教育プログラムの具体化に向けて意見を交換した。その成果として、今年度中にパイロットプログラムとして韓国から10名程度（予定）の学生を受け入れ、5日程度の日程で開催する方向で、今、話を進めつつある。

欧州の研究者グループと連携して、来年度、同じテーマでも今回とは別のアジアレベルの国際会議を日本で引き受ける予定であり、現在、本学と明治大学との共催を調整中である。今回、招聘した研究者もすでに自国で当該研究大会を引き受けてきており、この度の来日の機会に2018年度の日本大会への協力を要請したところ、快諾してもらった。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏名	所属・職名	会議における活動	内訳(学部・研究科)
空閑厚樹	コミ福・教授	特別セッション・報告	コミ福 6名
鈴木弥生	同上	特別セッション・司会進行	名
リッチー・ザイン・アロン	コミ福・助教(当時)	同上	名
三本松政之	コミ福・教授	運営協力者	名
河東仁	同上	同上	名
北島健一	同上	運営責任者・ワークショップ報告	その他()
			計 6名
変更内容(氏名、不参加/追加の別) 坂田周一、不参加			

(2) 学外参加者(国内、国外)

氏名	国名・所属・職名	会議における活動	内訳
Moo-Kwon CHUNG	韓国/延世大学/教授	講演, ワークショップ報告者	国名
Sang-il HAN	同上	ワークショップ報告者	韓国 4名
Hyun-Ok LEE	同上	同上	台湾 2名
Joon-Shil PARK	韓国/翰林大学/教授	同上	香港 1名
Yu-Yuan KUAN	台湾/国立中正大学/教授	同上	スイス 1名
Shu-Twu WANG	台湾/国立屏東科技大学/教授	同上	日本 8名
Kam Tong CHAN	香港/香港理工大学/准教授	同上	
Pascal Van GRIETHUYSEN	スイス/国連社会開発研究所/Research Coordinator	講演	
森澤 恵子	大阪市立大学/名誉教授	コメンテーター	計 5カ国 16名
橋本 理	関西大学/教授	ワークショップ報告者	
金子勝規	大阪市立大学/准教授	同上	
牧野松代	関西外国語大学/教授	同上	
岩満賢次	愛知教育大学/准教授	同上	
柴田学	金城学院大学/講師	コメンテーター	
栗本裕見	大阪市立大学都市研究プラザ/特別研究員	コメンテーター	
小野雅司	アズワン鈴鹿コミュニティ/研究員	特別セッション報告者	
変更内容(氏名、不参加/追加の別) 栗本裕見(大阪市立大学都市研究プラザ・特別研究員)、追加(コメンテーター) 小野雅司(アズワン鈴鹿コミュニティ・研究員)、追加(特別セッション報告者)			